

現状の水害リスク情報や取組状況の共有
各自治体でそれぞれ又は連携して実施している現状の減災に係る取組状況等

① 地域住民の水防災意識の向上に関する事項

項 目		菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	課題のまとめ	課題 No
自主防災体制の強化	現状	【現状】 ・毎年、自主防災会の役割と市の体制などについての説明会を実施する他、防災に係る講演会を実施している。 ・地区防災連絡会を平成25年より順次立ちあげており、平成28度中に11地区全て完了予定。 ・地区防災連絡会を通じた情報交換を行う形に変更している。	【現状】 ・防災会議、自主防災会長会議、広域避難所運営連絡会、出前講座等を開催、市民向け訓練や講座、広報紙等で周知している。(毎年)	【現状】 ・事務所ホームページにおいて防災情報(浸水想定区域図等)のページへリンクすることにより、情報を提供している。		【現状】 ・事務所ホームページや市が配布している洪水ハザードマップなどから水害に関するリスクが提供されている。	●自主防災会の会員は地域住民の持ち回りとなっており、防災に関する情報や経験が蓄積されず、継承されない。 ●自主的な避難行動を促すための避難マップ(洪水ハザードマップを含む)や水害リスクの高い区間などの情報の認知が不足している。	A
	課題	【課題】 ・自主防災会役員は自治会役員としての位置づけであるため、任期が1年となっていることが多く、情報や経験の蓄積ができない。 (毎年の説明会・講演会でフォローしている)				【課題】 ・自主的な避難行動を促すため、更なる水害に対するリスク情報の提供が必要である。		B
水災害教育の充実	現状	【現状】 ＜学校教育＞ ・小学校において、総合的な防災教育を実施している。 ・中学校において、避難所の設営訓練を実施するなど、水害を含む総合的な防災教育を実施している。 ＜出前講座＞ ・行政の取り組みなどを知る機会を広く設けるため、自治会や団体、小規模なグループまでを対象とした「菊川市出前行政講座」を実施している。その中で、申し込み団体の意向に沿い防災講座を実施している。 ＜啓発資料＞ ・記録のうえでは当市における過去最大規模となった昭和57年の台風18号による水害の浸水域を基に、平成27年度末に「菊川市ハザードマップ」を作成し全戸に配布している。 ＜防災リーダーの育成＞ ・防災対策における地区のリーダーと位置づける防災指導員などに対し、[静岡県ふじのくに防災士養成講座]などへの積極的な参加を促すとともに、参加のための交通費の支援を実施している。 ・県との共催による研修会を実施している。	【現状】 ＜学校教育＞ ・小中学校において、総合的な防災教育を実施している。 ・防災訓練等への積極的な参加を進めている。 ＜出前講座＞ ・県と連携し、出前講座を実施している。 ＜啓発資料＞ ・市独自の「防災ガイドブック」の活用を進め、災害対策や市民の意識啓発に努めている。 ＜防災リーダーの育成＞ ・防災リーダー育成の講習会(初級・中級・上級)を開催するとともに、カリキュラム等の見直しを行っている。(毎年) ・防災研修会を開催している。(毎年)	【現状】 ＜防災リーダー・講師の育成＞ ・「静岡県ふじのくに防災士養成講座」に参加し、防災リーダーの育成を図っている。 ・河川事業等の工事説明会において、事業の目的とともに、浸水想定や、水害リスク、防災情報サイト等の周知、啓発を行っている。	【現状】 ・静岡地方気象台ホームページに、学校防災ポータルサイトを設け、防災授業素材集の紹介を行っている。 ・静岡県、静岡市、浜松市の各教育委員会に対し、防災気象情報の普及啓発について依頼を行っている。 ・依頼に基づき、出前講座やワークショップを実施している。	【現状】 ・次世代の学生を対象にした、水災害に関する学習環境は整っていない。 ・関係機関が開催する防災イベント時に、パネルなどによる広報活動を実施している。 ・啓発活動がスムーズに行える資料などが取りまとまったものはない。 ・啓発活動を実施できる人づくりの取り組みはない。	●水災害に関する教育や啓発活動を継続的に行うための人材の不足と誰もが同じ視点で講習できるテキストがない。	C
	課題	【課題】 ＜啓発資料＞ ・昭和57年以降40年間でインフラ整備も進み、異常気象による災害の規模増大もある中で、「想定外」を想定した対策の構築と市民の意識啓発が必要である。 ＜防災リーダーの育成＞ ・参加者数の増加	【課題】 ＜出前講座＞ ・出前講座への講師の派遣を行っていないため、防災教育の幅が広がらない。	【課題】 ・水災害について、教育と啓発する指導者の養成が必要である。		【課題】 ・教育機関と水災害に関する管理者との情報の共有と連携が必要である。 ・更なる啓発の強化が必要である。 ・誰もが同じ視点で啓発活動を実施する必要がある。 ・多くの啓発活動を実施できる人材の確保が必要である。		

現状の水害リスク情報や取組状況の共有
各自治体でそれぞれ又は連携して実施している現状の減災に係る取組状況等

② 情報伝達、避難計画等に関する事項

項 目		菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	課題のまとめ	課題 No
想定される浸水リスクの周知	現状	【現状】 ・過去の浸水状況と、100年に1回の降水量を想定した浸水域を記した「菊川市防災・ハザードマップ」を平成27年度に全戸に配布している。	【現状】 ・「掛川市洪水ハザードマップ」を作成し、全戸に配布している。	【現状】 ・事務所ホームページにおいて浸水想定ページへリンクすることにより、情報を提供している。		【現状】 ・ホームページにおいて、計画規模の降雨による浸水想定区域図を公表している。	●浸水想定区域図の公表、洪水ハザードマップの各戸配布等しているが、水害リスクについて、地域住民に十分に認知されていない。 ●まるごとまちごとハザードマップや水害リスクマップが整備されていない。 ●想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図は、今後公表となっており、水害リスクが認識されるよう周知する必要がある。	D E F
	課題		【課題】 ・迅速かつ的確な避難行動のためのまるごとまちごとハザードマップの公表を今後予定しており、浸水リスクの更なる周知が必要である。			【課題】 ・浸水想定区域図等における水害リスクが地域住民に十分に認知されていない。 ・想定最大外力を対象とした浸水想定区域図の公表を今後予定しており、浸水リスクの更なる周知が必要である。		
住民等への情報伝達の体制や方法	現状	【現状】 ・同報無線、災害メール等の従来からの情報発信システムの積極的な活用と併せ、[FUJISAN]システムによるテレビを利用した災害情報発信などの周知を行っている。 ・平成26年度末に導入した防災メール、「茶ちゃんメール」の登録者増加を推進し、確実な情報伝達手段の整備を図っている。 ・土砂災害防災訓練の際に「dボタン」の活用について説明している。	【現状】 ・同報メール、携帯へのエリアメール（緊急通報メール）にて情報配信している。 ・メールサービス登録者増加を推進し、確実な情報伝達手段の整備を図っている。 ・防災ラジオにて情報配信している。 ・デジタル同報無線の確実な伝達のため、防災ラジオを全戸に配布している。	【現状】 ・静岡県土木総合防災情報ホームページ「サイボスレーダー」において、雨量・水位情報などの情報を提供、普及活動を行っている。	【現状】 ・防災情報提供システムにより、試行提供を開始している。 ・気象庁ホームページにおいて、降水ナウキャスト等リアルタイム情報の提供を行っている。	【現状】 ・気象情報や河川情報、事務所ホームページなどを活用し情報提供を行っている。	●通信機器の老朽化が進んでおり、更なる情報提供の発信・普及が必要である。 ●数種類の防災情報が配信されているが、活用方法や説明の文言などが受け手側に分かりにくい。	G H
	課題	【課題】 ・高齢者は同報無線が聞こえない、メールを利用できない等、必要な情報をタイムリーに受信できない。なお、自主防災会への避難行動要支援者名簿の配布とあわせ、水害時に避難が必要な住民の見守りなどの依頼を実施している。 ・同報無線個別受信機の老朽化が進んでいる。	【課題】 ・要支援者への情報伝達方法等。	【課題】 ・更なる情報提供の発信・普及の取り組みが必要。		【課題】 ・流域特性を踏まえた更なる情報発信方法の検討が必要である。 ・更なる情報提供の発信・普及の取り組みが必要である。		
避難勧告等の発令及び関係機関での情報共有	現状	【現状】 ・市独自のタイムラインを作成している。 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。（毎年） ・合同巡視の一環で情報伝達訓練を実施している。	【現状】 ・市独自のタイムラインを作成している。 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。（毎年） ・合同巡視の一環で情報伝達訓練を実施している。 ・本部運営マニュアルの作成、水害対策チェックリストの整理を行っている。 ・必要に応じ、避難勧告等の基準の見直しなどを検討している。	【現状】 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。（毎年）	【現状】 ・河川水位の動向に応じて、住民避難等に資する「洪水予報」（浜松河川国道事務所・静岡地方気象台共同発表）を自治体向けに通知している。 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。（毎年）	【現状】 ・河川水位の動向に応じて、住民避難等に資する「洪水予報」（浜松河川国道事務所・静岡地方気象台共同発表）を自治体向けに通知している。 ・関係機関の行動がわかるタイムラインが作成されている。 ・洪水対応演習を実施し、情報伝達の方法や内容を確認している。（毎年）	●水位の危険レベルに達した段階毎に洪水予報を発表することになっているが、発表地点が1箇所であり、下流域の住民の避難行動に結びつきにくい。 ●風水害における避難勧告の経験（実績）が少なく、風水害における避難勧告を想定した訓練を実施しておらず、住民への周知の徹底や迅速な避難所運営に不安がある。	I J
	課題	【課題】 ・市独自のタイムラインを試行しているが、国や県との連携などについては関連付けがなされていない。 ・水害対応チェックリストを作成していない。	【課題】 ・近年では局所豪雨のリスクが増加している。氾濫危険水位等が定められているが、計算等の精度を上げ、住民の避難行動に結びつける必要がある。	【課題】 ・各機関が策定されたタイムラインについて、作業段階における連携が必要である。	【課題】 ・タイムラインや水害対応チェックリストの策定状況、情報連絡室・意見交換会の実態が把握できていない。	【課題】 ・各機関のタイムラインの見直しと毎年の担当者との確実な周知の実施が必要である。		
避難場所、避難経路	現状	【現状】 ・ハザードマップなどにより周知している。 ・社会福祉法人の運営については県の指導監査により指導を実施している。	【現状】 ・ハザードマップなどにより周知している。 ・必要に応じて避難場所の再検討を実施している。				●浸水想定区域内に避難所が立地している地区がある。	K
	課題	【課題】 ・浸水想定区域内に避難所が立地している地区がある。	【課題】 ・広域避難所の運営訓練の実績が少なく、自ら運営を行うという意識が低い。 ・津波や洪水を考慮して、浸水域外への広域避難を考える必要がある。					

現状の水害リスク情報や取組状況の共有
各自治体でそれぞれ又は連携して実施している現状の減災に係る取組状況等

③ 水防に関する事項

項 目		菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	課題のまとめ	課題 No	
水防活動の実施体制の強化	現状	【現状】 ・連絡体制の確認、伝達訓練を実施している。 ・自主防災会・水防団を対象に、水防訓練を実施し、水防工法の習得と併せ、出水への対応や避難など、防災意識の啓発を図っている。また、家庭での浸水対策の技術講習を盛り込んでいる。 ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加している。(毎年) ・水防訓練開催前に、水防団・防災指導員を対象とした水防技術講習会を実施している。 ・水防団員(消防団員)の確保に向けて、自治会へのお願いやポスターを掲示している。 ・水防協議会等を開催し、河川管理者や水防団などと意見交換を実施している。	【現状】 ・連絡体制の確認、伝達訓練を実施している。 ・水防訓練を実施している。主に水防団を対象に危険箇所の巡視を実施している。 ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加している。(毎年) ・水防訓練開催前に、水防団・防災指導員を対象とした水防講習会を実施している。 ・水防団員(消防団員)の確保に向けて、各防災会議等にて団員確保の必要性を訴えている。 ・消防本部が行う団員勧誘活動に協力している。 ・市関係庁舎等に普及用ポスターを掲示している。 ・水防協議会等を開催し、河川管理者や水防団などと意見交換を実施している。	【現状】 ・県管理区間の重要水防箇所の共同点検を実施している。 ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加している。(毎年) ・市主催の水防訓練に参加している。 ・国が実施する水防工法等の基礎技術についての研修会や訓練に参加等の協力を行っている。 ・地域の建設会社と災害応援協定を締結し、災害対応や水防活動等の協力体制を整備している。			【現状】 ・水防工法等の基礎技術についての資料提供や説明を行っている。	●水防団員が減少しており、迅速かつ的確な水防活動が厳しくなっているとともに、水防技術の伝承がされにくくなっている。	L
	課題	【課題】 ・迅速かつ的確な水防活動を継続させるため、水防団員の入団促進を図る必要がある。	【課題】 ・迅速かつ的確な水防活動を継続させるため、水防団員の入団促進を図る必要がある。		【課題】 ・関係機関への提供内容や提供方法等が定まっていない。	【課題】 ・水防技術の伝承及び水防活動の普及が必要である。			
水防資機材の整備状況	現状	【現状】 ・水防訓練に使用した土のう・砂を配布するとともに、土のうステーション(備蓄砂置き場等)の設置を進めている。	【現状】 ・水防訓練で使用した土のう・砂等を消防本部の土のう置き場へ備蓄し活用している。	【現状】 ・災害対応としての水防資機材を備蓄している。		【現状】 ・側帯堤防の裏側(堤内地側に土砂を積み上げた部分のこと)に根固ブロックや土砂を備蓄している。	●資材の確保や水防作業の拠点となる防災ステーションや大規模な防災拠点等の施設がない。 ●多くの地域住民が、自宅などの浸水防止に使用できる土のうステーションが完成していない。	M N	
	課題	【課題】 ・土のうステーションにおける、袋の劣化によるゴミ散乱が問題となっている。				【課題】 ・大規模な復旧に必要な拠点整備に向けた検討が必要である。			

④ 氾濫水の排水、施設運用に関する事項

項 目		菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	課題のまとめ	課題 No
排水施設、排水資機材の操作・運用	現状	【現状】 ・「菊川市水防計画書」は作成済。 ・洪水後の復旧に関する計画書等は未作成。	【現状】 ・排水に関する計画はなく、排水ポンプ車も有していない。 ・レンタル業者と建設業者と協定を結んでおり、排水を実施。 ・アクションプランに基づき、内水対策を実施している。	【現状】 ・排水に関する計画はなく、排水ポンプ車も有していない。		【現状】 ・排水ポンプ車や照明車等の災害対策車両・機器は平常時から定期的な保守点検を行うとともに、機材を扱う職員等の教育体制も確保し、常時、災害発生に対応した出動体制を確保している。	●氾濫水を計画的に排水するための計画がない。 ●大規模な浸水を想定した排水訓練が実施されていない。	O P
	課題	【課題】 ・地形的特性を踏まえ、内水対策の検討を行う。	【課題】 ・堤外排水は、堤防は河川の氾濫を前提としているため、無理に排水を行うと越水する可能性があるのではないかと懸念している。 ・外水氾濫が発生した場合は排水ポンプを停止するという規則がある事を、河川管理者として、市民に周知する必要がある。 ・地形的特性を踏まえ、内水対策の検討を行う。			【課題】 ・想定最大規模の洪水や津波を対象とした被災に対する排水計画が未整備であり、迅速な復旧作業が出来ない可能性がある。 ・大規模な浸水を想定した、迅速な排水活動を行うための訓練が必要である。		

⑤ 河川管理施設の整備に関する事項

項 目		菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所	課題のまとめ	課題 No
洪水を安全に流すためのハード対策の推進	現状		【現状】 ・本川からの逆流防止のための対策を行っている。	【現状】 ・支川における河川改修や維持管理等を実施している。		【現状】 ・河道の流下能力が不足している区間の整備を実施している。	●流水を安全に流すためのハード対策と、氾濫した場合でも洪水被害を軽減するための危機管理型ハード対策の整備が不十分である。	Q
	課題		【課題】 ・フラップゲートの設置等のハード対策を今後も進める必要がある。	【課題】 ・未改修区間があり、全体の整備には長期間を要する。		【課題】 ・施設で対応できる以上の洪水に対しても、避難までの時間をできるだけ確保するための、危機管理型ハード対策を進める必要がある。		

具体的な取組の柱			目標時期	実施する機関					地域住民
事項				菊川市	掛川市	静岡県	気象台	浜松河川 国道	
具体的な取組		課題 No							
1. 住民に防災を意識してもらうための取り組み									
■自主防災体制の強化									
自主防災会が継続的かつ適切に運営されるための 情報提供や体制・活動の支援		A	引き続き実施	○	○				参加
水害リスクが高い区間などに関する情報提供と説明 会の開催		B	H28年度～					○	参加
■水災害教育の充実									
小中学校などと連携した菊川水系の洪水の特徴 を踏まえた水害（防災）教育の拡充		C	引き続き実施	○	○		○	○	参加
関係機関と協力・連携した普及啓発活動の実施 （出前講座、ワークショップ等）		C	引き続き実施	○	○		○	○	参加
効果的な「水防災意識社会」再構築に役立つ情報 や、浸水リスクを周知するための啓発資料の作成		B,C	引き続き実施	○	○	○	○	○	活用
地域における災害時の応急活動・マネジメントや 平時の防災訓練の場でのリーダーとなる防災リー ダー・講師の育成		C	引き続き実施	○	○	○	○	○	参加
2. 住民に避難行動してもらうための取り組み									
■住民自らの避難行動に資するハザードマップの改良									
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定 区域図の策定・公表		D,F	H28年度中					○	活用
想定最大規模の外力を対象とした氾濫シミュレ ーションの作成・公表		D,F	H28年度中					○	活用
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定 区域図を基にした洪水ハザードマップの作成・周 知の実施		D,E,F	H28年度～	○	○				活用
まるごとまちごとハザードマップの整備		E	H28年度～		○				活用
■円滑で確実な避難に資する情報発信									
水害時の情報入手のしやすさ・分かりやすさを支 援するための広報活動の実施		G,H	引き続き実施	○	○	○	○	○	活用
住民の避難行動を促すためのスマートフォン等 を活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情 報の発信・普及活動の実施		G,H	引き続き実施	○	○	○	○	○	活用
■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定									
洪水を対象とした避難勧告の発令等に着目したタ イムライン（時系列の防災行動計画）の見直し		I,J	H28年度～	○	○	○	○	○	-
職員の誰もが水害対応できるチェックリストの作成		J	引き続き実施	○	○	○	○	○	-
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定 区域図に伴う、洪水避難場所の検討・整備の促進		K	H28年度～	○	○			○	活用
情報伝達手段の多元化、通信機器の更新		G	引き続き実施	○	○				活用
確実かつ迅速な情報の提供と地域住民に避難の 切迫性が確実に伝わる情報を提供		H	引き続き実施	○	○	○	○	○	活用
きめ細やかな情報連絡・情報共有を密にするた めの情報連絡室（関係機関との情報ネットワーク） の改善		I,J	H28年度～	○	○	○	○	○	活用
避難を行う住民代表との避難に関する意見交換 会の実施		I,J	H28年度～	○	○	○	○	○	-
3. 洪水氾濫による被害の軽減のための水防活動・排水活動の取り組み									
■住民自らの水防活動の促進									
住民自らの浸水防止活動の促進のための土のう ステーション（備蓄砂置き場等）の設置		N	引き続き実施	○	○				活用
■水防活動の効率化・水防体制の強化									
確実な水防活動のため、水防団等への連絡体制 の確認と伝達訓練の実施		L	引き続き実施	○	○				-
関係機関が連携した実働水防訓練の実施		L	引き続き実施	○	○	○		○	-
水防団や地域住民が参加する、水害リスクの高い 箇所の共同点検の実施		L	引き続き実施	○	○	○		○	参加
水防団員に対しての教育・訓練（水防工法の伝 承、安全教育など）の実施		L	引き続き実施	○	○	○		○	-
水防団員確保に向けて、自治会への説明会や水 防団の重要性をPRする資料を作成するなど普及 啓発活動の実施		L	引き続き実施	○	○	○		○	-
■被害軽減のための迅速かつ確実な水防活動、排水活動に資する基盤等の整備									
優先的に対策が必要な河道掘削などの洪水を河 川内に安全に流すためのハード対策及び天端舗 装などの危機管理型ハード対策の実施		Q	引き続き実施		○	○		○	-
円滑な水防活動のため橋脚等への簡易水位計・ 量水標設置		M	H28年度～					○	-
迅速な水防活動及び緊急復旧活動を行う支援の 拠点となる防災ステーションや大規模な防災拠点 整備に向けた検討		M	H28年度～					○	-
■迅速に復旧・復興するための取り組み									
氾濫水を迅速かつ的確に排水するための排水計 画の策定		O	H28年度～	○	○	○		○	-
排水ポンプ車出動要請の連絡体制を整備し、排水 計画に基づく排水訓練を実施		P	引き続き実施	○	○	○		○	-

○概ね5年で実施する取組

具体的な取組の柱			実施する機関				
事項		課題 No	菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所
具体的な取組							
1. 住民に防災を意識してもらうための取り組み							
■自主防災体制の強化							
自主防災会が継続的かつ適切に運営されるための情報提供や体制・活動の支援	A	・自主防災会役員への説明会及び講演会を実施する(毎年) 【引き続き実施】 ・「地区防災連絡会」を上位組織とする自治会ネットワークを構築する 【H28年度中】 ・「地区防災連絡会」の運営支援を行うとともに、情報共有や経験の蓄積、自主防災会役員の任期延長を図る ・地区単位で策定する「地区防災計画」の支援を行う 【H28年度～】	・防災会議、自主防災会長会議、広域避難所運営連絡会、出前講座等を開催、市民向け訓練や講座、広報紙等で周知する(毎年) 【引き続き実施】				
水害リスクが高い区間などに関する情報提供と説明会の開催	B						・水害リスクが高い区間等に関する情報の提供と説明会を実施する 【H28年度～】
■水災害教育の充実							
小中学校などと連携した菊川水系の洪水の特徴を踏まえた水害(防災)教育の拡充	C	・小中学校において、総合的な防災教育を実施する 【引き続き実施】	・小中学校において、総合的な防災教育を実施する ・防災訓練等への積極的な参加を進める 【引き続き実施】 ・小中学生を対象とした次世代を担う防災リーダー研修を実施する 【H28年度～】		・気象や水災害に関する防災授業素材を提供する 【H28年度～】	・流域自治体において、管理者が作成した防災に関する資料を使用した授業が行われるよう、啓発活動を推進する 【H28年度～】	
関係機関と協力・連携した普及啓発活動の実施(出前講座、ワークショップ等)	C	・「菊川市出前行政講座」を実施する 【引き続き実施】	・出前講座を実施する 【引き続き実施】		・出前講座や気象庁ワークショップによるコミュニケーションを活用した能動的な学習等、関係機関と協力・連携した普及啓発活動を実施する ・双方の取組がより効果的となるような講師派遣やイベントの参画等の相互支援を行う 【H28年度～】	・防災展示を実施する 【引き続き実施】 ・防災関係の会議などでの出前講座の開催を行う 【H28年度～】	
効果的な「水防災意識社会」再構築に役立つ情報や、浸水リスクを周知するための啓発資料の作成	B,C	・「菊川市ハザードマップ」の活用を進め、想定外の災害への対策や市民の意識啓発に努める 【引き続き実施】 ・水害対策も含めた、市独自の「菊川市防災ガイドブック(仮称)」を作成、全戸配布する 【H28年度～】	・市独自の「防災ガイドブック」の活用を進め、災害対策や市民の意識啓発に努める 【引き続き実施】	・関係機関と協議し、防災テキストの作成に協力する 【H28年度～】	・教育機関等が行う防災教育や防災機関が行う防災知識の普及促進のための資料提供等の支援を行う 【H28年度～】	・防災に関する知識の習得や、防災に関する啓発活動、教育現場での教材などに活用できる防災テキストを作成する 【H28年度～】	
地域における災害時の応急活動・マネジメントや平時の防災訓練の場でのリーダーとなる防災リーダー・講師の育成	C	・防災指導員に対し、「静岡県ふじのくに防災士養成講座」等への積極的な参加を促し、参加のための交通費を助成する ・県との共催による研修会を実施する(毎年) 【引き続き実施】	・防災リーダー育成の講習会(初級・中級・上級)を開催するとともに、カリキュラム等の見直しを行う(毎年) ・防災研修会を開催する(毎年) 【引き続き実施】 ・小・中学生を対象に、次世代防災リーダーの育成を行う 【H28年度～】	・「静岡県ふじのくに防災士養成講座」に参加し、防災リーダーの育成を図る 【引き続き実施】	市町の防災担当者や防災リーダー等の育成を支援する。 【引き続き実施】	・水防関係者や教育指導者への防災テキスト活用のためのセミナーを開催する 【H29年度～】	
2. 住民に避難行動してもらうための取り組み							
■住民自らの避難行動に資するハザードマップの改良							
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図の策定・公表	D,F					・洪水浸水想定氾濫区域図の策定・公表 【H28年度中】	
想定最大規模の外力を対象とした氾濫シミュレーションの作成・公表	D,F					・氾濫シミュレーションの作成・公表 【H28年度中】	
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図を基にした洪水ハザードマップの作成・周知の実施	D,E,F	・想定最大規模降雨に基づいた洪水浸水想定区域図への見直しに伴い、「菊川市防災ハザードマップ」の改訂版を作成する ・河川が関連する訓練において、ハザードマップを活用する 【H28年度～】	・想定最大規模降雨に基づいた洪水浸水想定区域図への見直しに伴い、「掛川市洪水ハザードマップ」の改訂版を作成する ・河川が関連する訓練において、ハザードマップを活用する 【H28年度～】				

○概ね5年で実施する取組

具体的な取組の柱		実施する機関				
事項		菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所
具体的な取組	課題 No					
まるごとまちごとハザードマップの整備	E		・まるごとまちごとハザードマップの検討を行う【H28年度～】			
■円滑で確実な避難に資する情報発信						
水害時の情報入手のしやすさ・分かりやすさを支援するための広報活動の実施	G,H	・同報無線、災害メール等の従来からの情報発信システムの積極的な活用と併せ、[FUJISAN]システムによるテレビを利用した災害情報発信などの周知を行う【引き続き実施】	・同報無線(防災ラジオ)や災害メール等の活用と併せ、テレビを利用した災害情報取得を市民に周知する【引き続き実施】	・静岡県土木総合防災情報ホームページ「サイボスレーダー」において、情報提供並び普及活動を行う【引き続き実施】	・気象庁ホームページ等において、わかりやすい情報提供(警報等における危険度の色分け表示、「警報級の現象になる可能性」の情報提供、警報・注意報を補足するメッシュ情報の充実化)を行う【H29年度～】	・主旨が伝わりやすい情報提供を促進する ・情報発信に入手に関する広報チラシの作成と配布を行う【H29年度～】
住民の避難行動を促すためのスマートフォン等を活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信・普及活動の実施	G,H	・防災メール、「茶こちゃんメール」にて情報配信する ・メールサービス登録者増加を推進し、確実な情報伝達手段の整備を図る ・同報無線音声自動応答サービスの利用方法の周知と利用促進を図る ・避難勧告、避難指示の場合はエリアメールを配信する【引き続き実施】	・同報メール、携帯へのエリアメール(緊急通報メール)にて情報配信する ・メールサービス登録者増加を推進し、確実な情報伝達手段の整備を図る ・防災ラジオを全戸に配布する【引き続き実施】	・静岡県土木総合防災情報ホームページ「サイボスレーダー」において、情報提供並び普及活動を行う【引き続き実施】	・関係機関で住民目線に立ったわかりやすい情報提供に向けた改善を検討【H28年度～】 ・気象庁ホームページ等において、わかりやすい情報提供(警報級の現象になる可能性)の情報提供、警報・注意報を補足するメッシュ情報の充実化)を行う【H29年度～】	・ソフト対策:情報共有 ・地域への情報発信・情報共有【H28年度～】
■避難指示などを計画的に関係者が取り組むための事前行動計画等の策定						
洪水を対象とした避難勧告の発令等に着目したタイムライン(時系列の防災行動計画)の見直し	I,J	・タイムラインの見直しを検討する【H28年度～】	・タイムラインの見直しを検討する【H28年度～】	・タイムラインの策定や見直しに協力する【H28年度～】	・タイムラインの策定や見直しに協力する【H28年度～】	・各関係機関の行動計画がわかる、タイムライン整理と見直しを行う【H28年度～】 ・タイムラインに基づく訓練を実施する【H29年度～】
職員の誰もが水害対応できるチェックリストの作成	J	・水害対応チェックリストの作成を行う【平成28年度～】	・本部運営マニュアルの作成、水害対応チェックリストの整理を行う【引き続き実施】	・市の水害対応チェックリストの見直しに協力する【H28年度～】	・市の水害対応チェックリストの見直しに協力する【H28年度～】	・市の水害対応チェックリスト作成に協力する【H28年度～】
想定最大規模の外力を対象とした洪水浸水想定区域図に伴う、洪水避難場所の検討・整備の促進	K	・必要に応じて避難場所の再検討を実施する【H28年度～】	・必要に応じて避難場所の再検討を実施する【H28年度～】			・避難場所検討に向けた氾濫シミュレーションなどの情報提供を行う【H28年度～】
情報伝達手段の多元化、通信機器の更新	G	・同報無線個別受信機の更新を推進する【引き続き実施】	・同報無線の確実な伝達のため、防災ラジオを全戸に配布する【引き続き実施】			
確実かつ迅速な情報の提供と地域住民に避難の切迫性が確実に伝わる情報を提供	H	・避難勧告等への「やさしい日本語」の使用を検討する【H28年度～】 ・同報無線にて情報配信する【引き続き実施】	・必要に応じ、避難勧告等の基準の見直しなどを検討する ・避難勧告等への「やさしい日本語」の使用を検討する ・同報無線にて情報配信する【引き続き実施】	・避難勧告等の情報を共有する【H28年度】	・洪水予報文、伝達手法の改善を行う【引き続き実施】	・避難勧告の発令基準を洪水実績や河川状況を把握し、適宜見直しを行う【H28年度～】 ・水位等の情報を関係機関と共有するための施設の整備を進める ・洪水予報文、伝達手法の改善を行う【引き続き実施】
きめ細やかな情報連絡・情報共有を密にするための情報連絡室(関係機関との情報ネットワーク)の改善	I,J	・情報連絡室に参加する ・関係機関と情報連絡室の情報内容の充実を検討し改善する【H28年度～】	・情報連絡室に参加する ・関係機関と情報連絡室の情報内容の充実を検討し改善する【H28年度～】	・情報連絡室に参加する ・関係機関と情報連絡室の情報内容の充実を検討し改善する【H28年度～】	・情報連絡室に参加する ・関係機関と情報連絡室の改善について検討する【H28年度～】	・関係機関に参加を呼びかける ・関係機関と情報連絡室の情報内容の充実を検討・改善する【H28年度～】
避難を行う住民代表との避難に関する意見交換会の実施	I,J	・地区防災連絡会など、防災関係の会議にて意見交換を実施する【H28年度～】	・防災会長会議など、防災関係の会議にて意見交換を実施する【H28年度～】	・関係機関による意見交換会に参加する【H28年度～】	・関係機関による意見交換会に参加する【H28年度～】	・関係機関による意見交換会に参加する【H28年度～】

○概ね5年で実施する取組

別紙2－2

具体的な取組の柱		実施する機関				
事項		菊川市	掛川市	静岡県	静岡地方気象台	浜松河川国道事務所
具体的な取組	課題 No					
3. 洪水氾濫による被害の軽減のための水防活動・排水活動の取り組み						
■住民自らの水防活動の促進						
住民自らの浸水防止活動の促進のための土のうステーション(備蓄砂置き場等)の設置	N	・水防訓練に使用した土のう・砂を配布するとともに、現在設置している水防倉庫の活用や土のうステーション(備蓄砂置き場等)を設置し活用を進める 【引き続き実施】	・水防訓練で使用した土のう・砂等を消防本部の土のう置き場へ備蓄し活用を進める ・水防団車庫等に土のうステーションを随時設置し活用を進める 【引き続き実施】			
■水防活動の効率化・水防体制の強化						
確実な水防活動のため、水防団等への連絡体制の確認と伝達訓練の実施	L	・連絡体制の確認、伝達訓練を実施する 【引き続き実施】	・連絡体制の確認、伝達訓練を実施する 【引き続き実施】			
関係機関が連携した実働水防訓練の実施	L	・水防訓練を実施する(毎年) ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加する(毎年) 【引き続き実施】	・水防訓練を実施する(毎年) ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加する(毎年) 【引き続き実施】	・県管理区間の重要水防箇所の共同点検を実施する(毎年) ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加する(毎年) ・市主催の水防訓練に参加する(毎年) 【引き続き実施】		・関係機関へ重要水防箇所の状況について説明会を実施する ・毎年、出水期前に地元市町村、水防団等と合同巡視を行い、重要水防箇所等の情報共有を図る ・自治体への助言を行う 【引き続き実施】
水防団や地域住民が参加する、水害リスクの高い箇所の共同点検の実施	L	・自主防災会・水防団を対象に、水防訓練を実施し、出水への対応や避難など、防災意識の啓発を図る(毎年) ・水防訓練に家庭での浸水対策の技術講習を盛り込む ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に、水防団と自治会役員とともに参加する 【引き続き実施】	・主に水防団を対象に危険箇所の巡視を実施する(毎年) ・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加する(毎年) 【引き続き実施】 ・地域住民と重要水防箇所を合同巡視する【H28年度～】	・国主催の重要水防箇所の合同巡視に参加する(毎年) ・県管理区間の重要水防箇所の共同点検を実施する(毎年) 【引き続き実施】		・関係機関へ重要水防箇所の状況について説明会を実施する ・毎年、出水期前に地元市町村、水防団等と合同巡視を行い、重要水防箇所等の情報共有を図る ・自治体への助言を行う 【引き続き実施】
水防団員に対しての教育・訓練(水防工法の伝承、安全教育など)の実施	L	・水防訓練開催前に、水防団・防災指導員を対象とした水防技術講習会を実施する 【引き続き実施】	・水防訓練開催前に、水防講習会を実施する 【引き続き実施】	・国が実施する水防工法等の基礎技術についての研修会や訓練に参加等の協力を行う 【引き続き実施】		・水防団を指揮する市町防災担当者に対して、水防工法等の基礎技術についてテキストを用いて説明会を実施する 【引き続き実施】
水防団員確保に向けて、自治会への説明会や水防団の重要性をPRする資料を作成するなど普及啓発活動の実施	L	・水防団員(消防団員)の確保に向けて、自治会へのお願いやポスターを掲示する 【引き続き実施】	・水防団員の確保に向けて、各防災会議等にて団員確保の必要性を訴えていく ・消防本部が行う団員勧誘活動に協力する ・市関係庁舎等に普及用ポスターを掲示する 【引き続き実施】	・教材を活用し、水防・消防団員や小中高等学校への普及啓発活動を実施する 【H28年度～】		・水防団活動を行う消防団員の確保のため、若年層の入団促進等の広報活動の実施や水防管理者の取組を支援する 【引き続き実施】
■被害軽減のための迅速かつ的確な水防活動、排水活動に資する基盤等の整備						
優先的に対策が必要な河道掘削などの洪水を河川内に安全に流すためのハード対策及び天端舗装などの危機管理型ハード対策の実施	Q		・本川からの逆流防止のための対策を行う 【引き続き実施】	・支川の河川整備を行う 【引き続き実施】		・ハード対策: 浸透対策(0.9km)、ハイレベ対策(0.9km)、流下能力対策(1.9km) ・危機管理型ハード対策: 天端の保護(25.4km)、裏法尻の補強(2.4km) 【平成32年度】
円滑な水防活動のため橋脚等への簡易水位計・量水標設置	M					・水位等の情報を関係機関と共有するための施設の整備を進める 【H28年度～】
迅速な水防活動及び緊急復旧活動を行う支援の拠点となる防災ステーションや大規模な防災拠点整備に向けた検討	M					・防災ステーションなどの整備検討を進める ・河川防災拠点等の整備検討を進める 【H28年度～】
■迅速に復旧・復興するための取り組み						
氾濫水を迅速かつ確に排水するための排水計画の策定	O	・排水計画の策定に協力する 【H28年度～】	・排水計画の策定に協力する 【H28年度～】	・排水計画の策定に協力する(氾濫域に位置する県管理河川の計画諸元等の情報提供) 【H28年度～】		・早期に氾濫水を排水するため、排水計画を策定する 【H28年度～】
排水ポンプ車出動要請の連絡体制を整備し、排水計画に基づく排水訓練を実施	P	・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会へ参加する(毎年) 【引き続き実施】	・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会へ参加する(毎年) 【引き続き実施】	・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会へ参加する(毎年) 【引き続き実施】		・災害時対応のため、民間会社と災害協定締結する ・災害対策用機械操作講習会を開催する(排水機場・樋門・樋管、排水ポンプ車) 【引き続き実施】